

最新ガイドラインに基づく

喘息とCOPDの診療

気管支喘息も COPD も日常臨床で遭遇することの多いコモンディゼーズであり、しかも疫学調査によると確実に増加している。両者はともに閉塞性換気障害を示すため、歴史的にも概念の混乱がみられたが、近年の病態をめぐる研究の進歩をふまえて、最新の診療ガイドラインが相次いで公表された。また、新規の薬剤が使用可能となり、両疾患の診断と治療には一段と進歩がみられる。このような状況から、これらの疾患をいかに的確に診断し治療・指導するかが、一般臨床医にとっても重要な問題となってきた。

本特集では以上の観点から、まず、両疾患の病態の理解のために、疾患概念の歴史とガイドラインの現状を整理し、それぞれの疫学、そして病態の最新の考え方を概観した。

次に、おのおののガイドラインに基づいて、診断と鑑別のポイントを挙げ、検査の有用性と限界についてまとめたうえで、喘息とCOPDの治療についても、ガイドラインに基づき、

救急現場で役立つ急性期治療の実践的な考え方と、それに引き続く、より慢性期の管理と治療の要点を解説している。薬剤の使用法についても、具体的な使い方や位置づけをまとめている。

さらに、禁煙、ワクチン、運動、食事の生活指導などの非薬物療法や、呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法と在宅人工呼吸についてもわかりやすく述べ、最後に、やや上級の診療のコツとして、治療抵抗性喘息へのアプローチやアスピリン喘息、妊娠と喘息、喘息・COPD 患者の外科手術の注意点といった実的な問題にも触れている。

本特集は、以上のように、喘息と COPD の今日的な課題を網羅したハンディな一冊となった。さっそく今日からの診療に役立つものと確信している。

滝沢 始

(帝京大学医学部附属溝口病院第4内科)